

# 日本の労働社会の変革 —ジェンダーの視点—

2019年12月10日  
一橋大学名誉教授  
木本喜美子

# 本日のストーリー

- 非正規シングル女性の問題を中心的に論じた講義（10月29日）を受けて
  - ◎非正規雇用：全体の4割、働く女性の6割  
大卒の2割、大学院修了の1割
- ⇒その根底にあるもの：「男性稼ぎ主モデル」
  - ・・・それを支えてきた日本型雇用慣行
  - ・・・そのもとでの結婚観・ジェンダー観とは？
- ⇒現在、このモデルは大きく揺らいでいる
  - ・・・新しい未来？！

# 第二次大戦後の推移

- 1945年：敗戦
- 1950年代末から1960年代：高度成長期
- 1973年：オイルショック→低成長期へ
- 1980年代：経済大国へ
- 1993年：バブル経済の崩壊
- →「失われた10年」「失われた20年」
  - ※2008年：リーマンショック
  - ※2011年：東日本大震災
- .....現在

# (1) 日本型雇用慣行とジェンダー

- 日本型雇用システム

- ▲正社員(メンバーシップ型)

- ▲非正規(ジョブ型)

→正社員:新規学卒者が「就社」(vs.「就職」)

企業内教育訓練

年功賃金

頻繁な異動・移動

長時間労働、「サービス残業」

=企業社会への強いコミットメント=**大企業の男性正社員**

→陰画としての非正規=**女性、そして若者(女性、男性)**

# 日本的雇用慣行への入り口としての 新卒一括採用

- 「ずぶの素人」を迎え入れ、企業内で人材育成する  
←曖昧な選抜基準：（学校歴や専門にも配慮はするが）、「自社」にふさわしい資質の持ち主  
（＝訓練を受容する素直さ、協調性）
- 「就活」がシステムティックに展開
  - **女性**はあらかじめ**排除**されていた時代があった  
（＝女性は長期雇用に耐ええない人材）

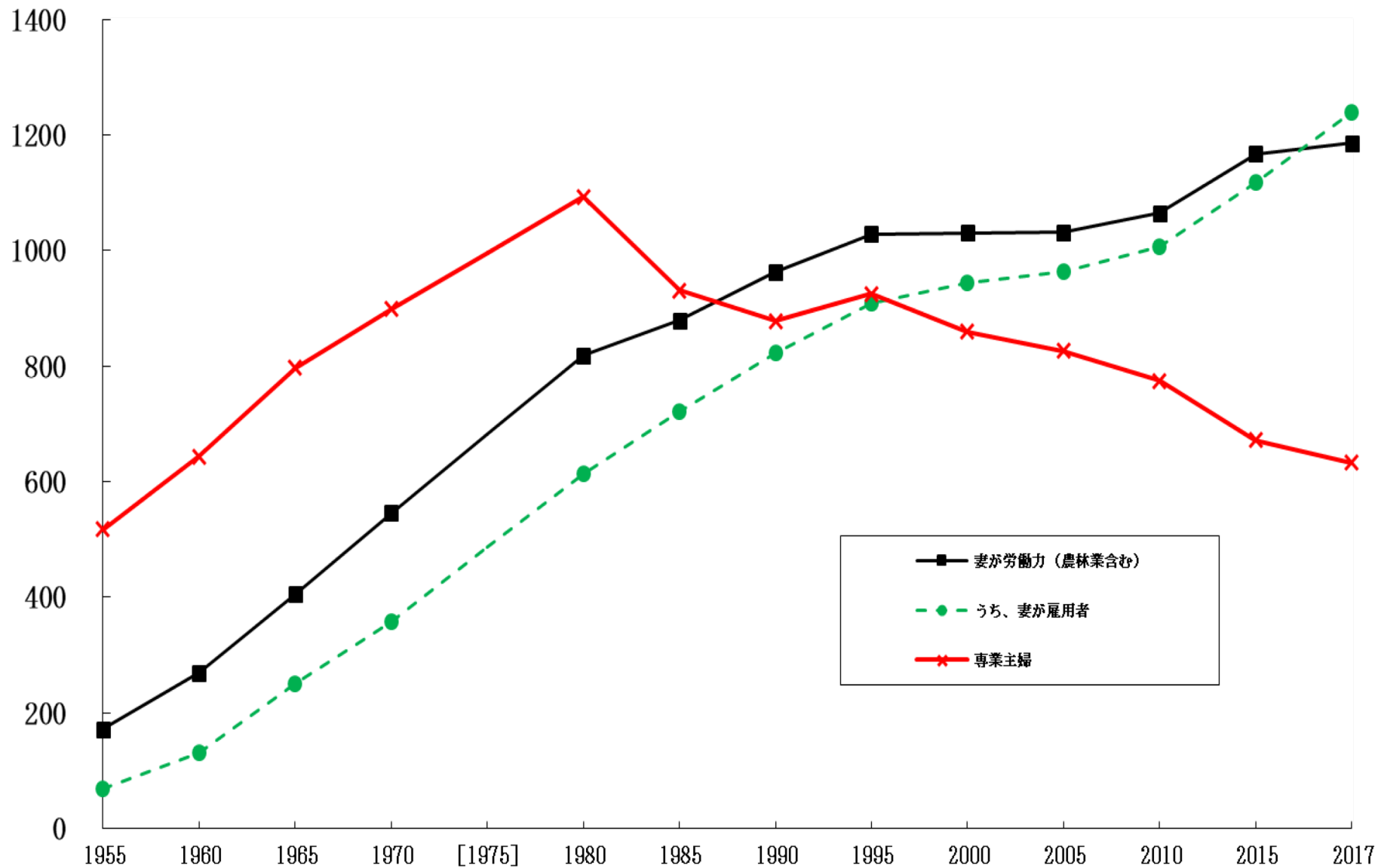
# 日本型雇用慣行のもとでの結婚・家族像

- 男性正社員は家族にとっての稼ぎ主・・・「働き過ぎ」状態に限りなく傾斜する傾向  
= 企業社会に呑み込まれた「会社人間」へ
- 女性は早期退職し、「職場の花」から「三食昼寝付き」へと「永久就職」= 専業主婦となる  
・・・やがてパートに

→→→会社人間＋専業主婦(or パート主婦)

(万世帯)

図1 共働き世帯数の推移 (夫がサラリーマンの世帯)



(出所) 総務省「国勢調査」(1955～1970年)、「労働力調査特別調査」(1980～2000年)及び「労働力調査」(2005年以降)より作成。なお1975年データは存在しな

# 主婦化：政策的バックアップ

- 1980年代には、一連の「主婦優遇」制度

・・・「内助の功」の評価

△民法の配偶者法定相続分の引き上げ(1980年)

△パート所得の特別減税(1984年)

△サラリーマン世帯の主婦年金の創出(1985年)

△所得税の配偶者特別控除(1986年)

→→→主婦は、働かない方がお得です？！



# 配偶者控除(2018年に変更)

- 配偶者(妻)の年間所得がゼロ~103万円なら……夫の所得から38万円控除される
- 配偶者(夫)の年間所得が103万円を超えると……夫の所得からの控除がなくなる  
+ 配偶者自身も所得税を支払う

※「103万円の壁」:  $103\text{万円} \div 12\text{か月} \div 4\text{週} = 21458\text{円}$   
(東京の最賃1013円)

※2018年からの変更点: 夫の所得が1000万円を超えた場合に、控除はなし

# 「男性稼ぎ主モデル」のもとで

- 性別分業家族：女性を専業主婦（あるいはせいぜいパート主婦）に、家庭の守り手役割を担うことをよしとする政策
- 女性が働いてもなお低賃金、を当然視
- . . . このモデルの揺らぎ
  - ← 共働き化の時代へ
  - ← 若者の非正規化の進行

## (2) 日本型雇用慣行下での女性・若者の 貧困ー不可視化から可視化へー

### <不可視化>

① 男性稼ぎ主型の家族を標準化 = 皆婚社会  
= <会社人間化する夫 + 専業主婦 or パート主婦>  
の組み合わせ・・・それ以外は逸脱家族

② 女性労働の周辺化

EX. 女性管理職がきわめてわずか(2018年) = 14.9% :

係長18.3%、課長11.2%、部長6.6%

cf. 2018年 : フィリッピン51.5%\*、フランス34.5%、

スウェーデン38.6%、イギリス36.3%、

シンガポール34.5%\* ( \* : 1917年 )

# 元祖・非正規としての主婦パートの低賃金問題

- ・・・非正規のマジョリティが主婦パートであった時代には、低賃金水準に対する批判はなし
- ・・・パートも「時間調整」して、たくさん稼がないようにしていた

- ・コアとなる所得がない女性の場合??

→ex.シングル・マザー問題

水島宏明『母さんは死んだー幸せ幻想の時代に』

現代教養文庫

- ・・・1987年1月(シングルマザーの餓死)  
ギャンブル好きの夫と離婚後、子どもたちを必死で育ててきた

# 日本的雇用慣行の守備領域の縮小と 非正規化の進行

## <可視化>

バブル経済の崩壊後、日本的雇用慣行見直しへ

○バブル崩壊後の「就職氷河期」世代の出現

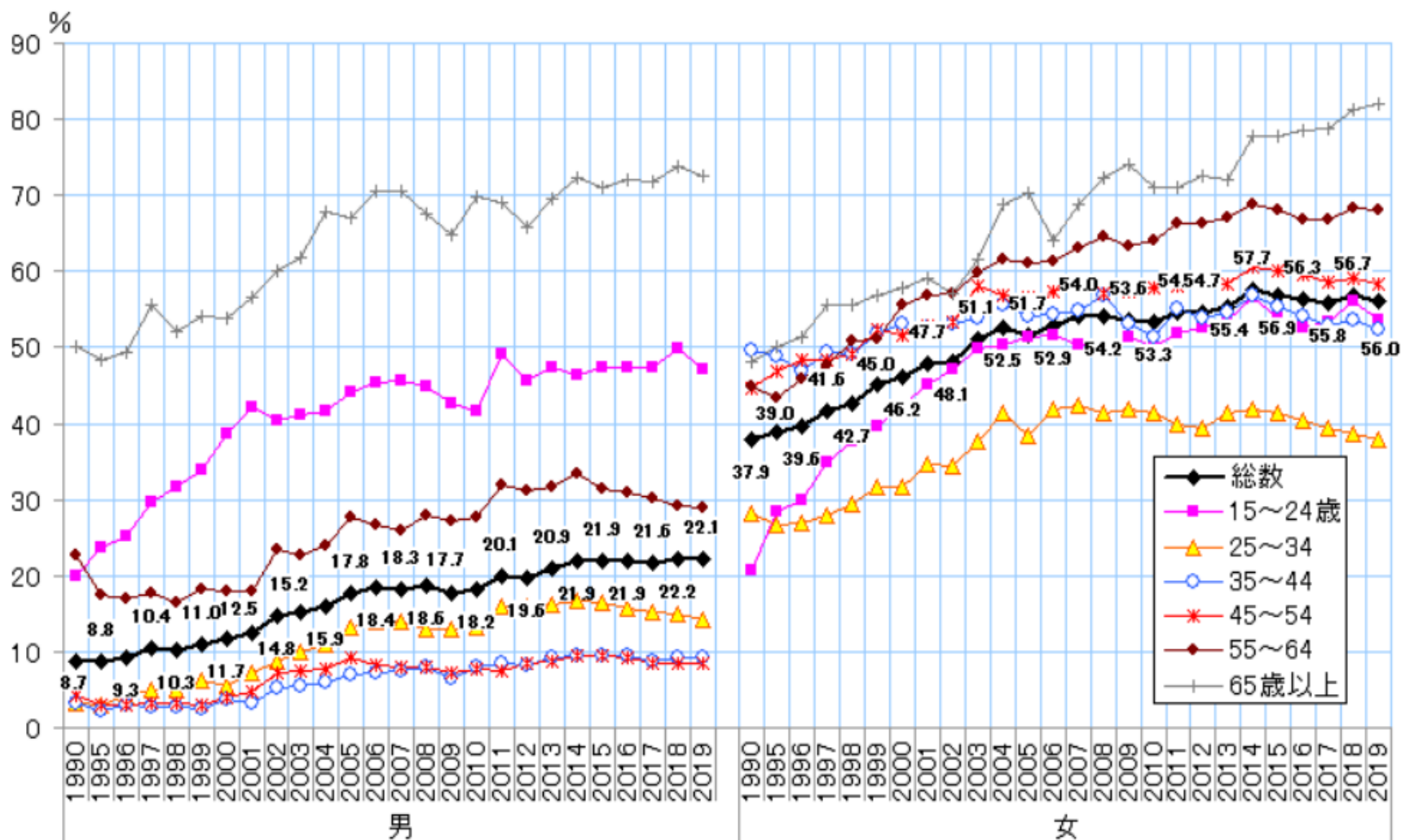
※1994年の流行語大賞

・・・ロスジェネレーションの誕生

○1990年代半ば以降、労働市場の規制緩和

・・・非正規の拡大

# 図2 非正規雇用者比率の推移(男女別・年齢別)



(注) 非農林業雇用者(役員を除く)に占める割合。1~3月平均(2001年以前は2月)。非正規雇用者にはパート・アルバイトの他、派遣社員、契約社員、嘱託などが含まれる。数値は男及び女の総数の比率。2011年は岩手・宮城・福島を除く。 14

# 若者バッシングのスタート

- 「フリーター」の発見のされ方：
  - 「豊かな時代」の若者の職業・自立意識の希薄さへの批判
  - お気楽なモラトリアム状態への批判
  - パラサイト・シングル批判（「学卒後もなお親と同居し、基礎的生活条件を親に依存している未婚者」）
- ・・・親から経済自立せず結婚もしない若者批判

# 非正規をとらえるバイアス

- 若者バッシングから、「フリーター問題」、「格差社会」との問題意識の成熟へ

→男性フリーターへの同情:

「結婚もできない!」「女が寄りつかない!」

→女性フリーターは不可視化:

「家事手伝い」……結婚すれば解消する?

※非正規化に加えて、晩婚化・未婚化のさらなる進行



### (3) 若者バッシングからの離陸:「若者問題」

- 学校から職業への移行 (transition) 問題としての若者問題の提起
  - 後期資本主義に集中的に起こる現象 :  
産業構造の転換 (製造業中心から知識集約型へ) + 高学歴化.....学歴の価値の下落 + 結婚の意味の転換
- 「大人」になっていく道筋の不明確化・不透明化  
(80年代:ヨーロッパ、アメリカ)

# 日本での「若者問題」のあらわれ方

- 90年代初頭のバブル経済の崩壊にいたるまで、この問題は顕在化せず
  - 1990年代後半以降:「学校から職業への移行(トランジション)期」の長期化＝若者の自立(就職、離家、結婚・出産)の困難、晩婚化・未婚化、さらには少子化とのつながり
- ←非正規のアルバイト職などが急増(ex.コンビニの急成長)＋新卒の正社員採用の手控え
- ←90年代後半以降の労働の規制緩和(非正規の増大)

# 発見されたフリーターの現実

- フリーター労働市場は、一度入り込んだら抜け出せない・・・その苦悩
- 結婚に向かいえない現実、自信のなさ
- 特に「高卒無業者」問題の厳しさ＝上級学校への進学機会と正社員としての就業機会の二重の喪失

→バブル経済崩壊後の、犠牲者としての若者

←しかし1990年代は依然として主要な世論は、若者バッシング:かつての経済的に安定していた時代の「大人」観のまなざし

# 日本的雇用慣行下の男性正社員が ノーマルな大人像なのか？

- スムーズな移行＝「皆婚社会」
- そこでの結婚モデルは、男性の経済的基盤に依存＝「男の甲斐性」は扶養者であること
- 会社人間への駆り立て：  
会社への過剰適応＝Lifeの欠落
- ……主婦は？

# ジャーナリスト・斎藤茂男の提起

- 「サラリーマンは幸福か」

\* 斎藤茂男：『会社とは：Kゼミ24人の軌跡』日本経済新聞社 1981.6（＝『サラリーマンは幸福か』ちくま文庫、1988年）

→1970年代後半の広告代理店の優秀な社員：  
毎晩午前零時をまわっての帰宅、土・日も得意先を訪問し、得意先の人とつきあい麻雀にゴルフ。ご接待の酒席のため。家族と過ごす時間と言えば、つきあいゴルフのない「たまの日曜」だけ。

# 会社人間のコインの裏側＝主婦

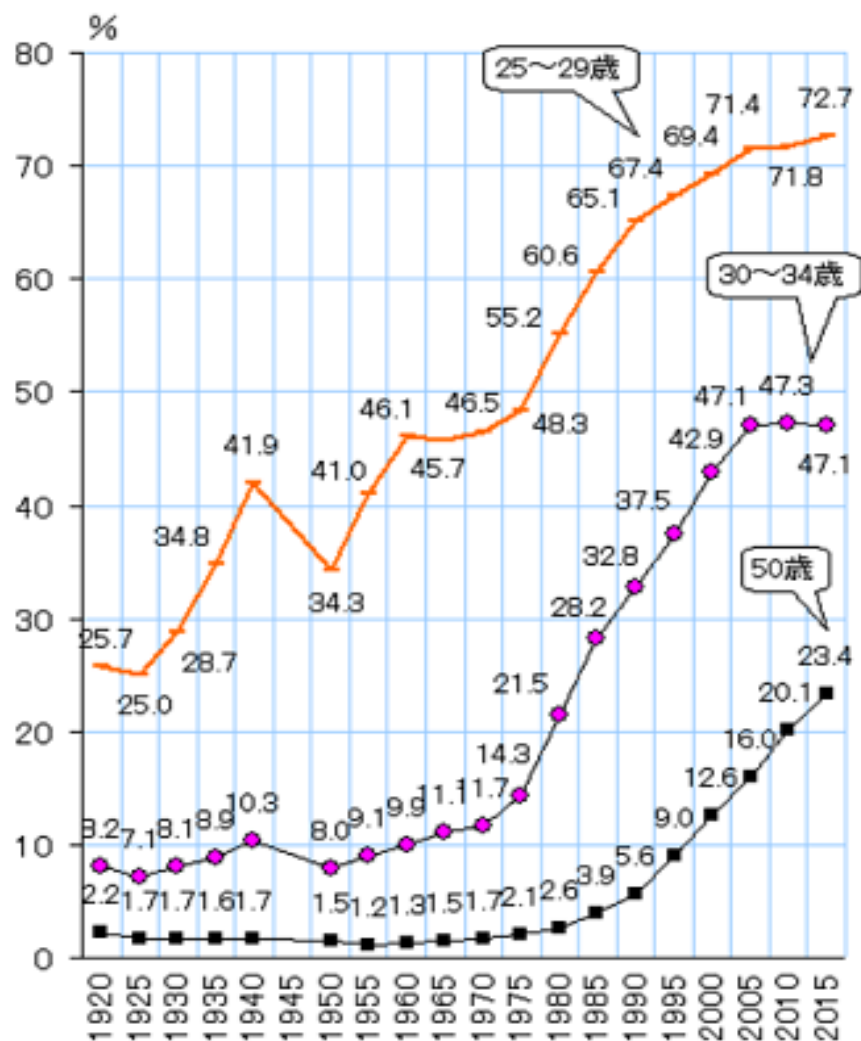
- 主婦化の進行
- 女性の職場からの排除＝「腰かけ」程度の入社  
↓
- 主婦＝女性の「幸せな生き方モデル」
  - ・・・夫の昇進競争の旗振り役にも
  - ・・・その一方で「妻たちの思秋期」症候群  
(＊ 斎藤茂男、共同通信社、1982年)

# 古いモデルに変革を迫る諸要素

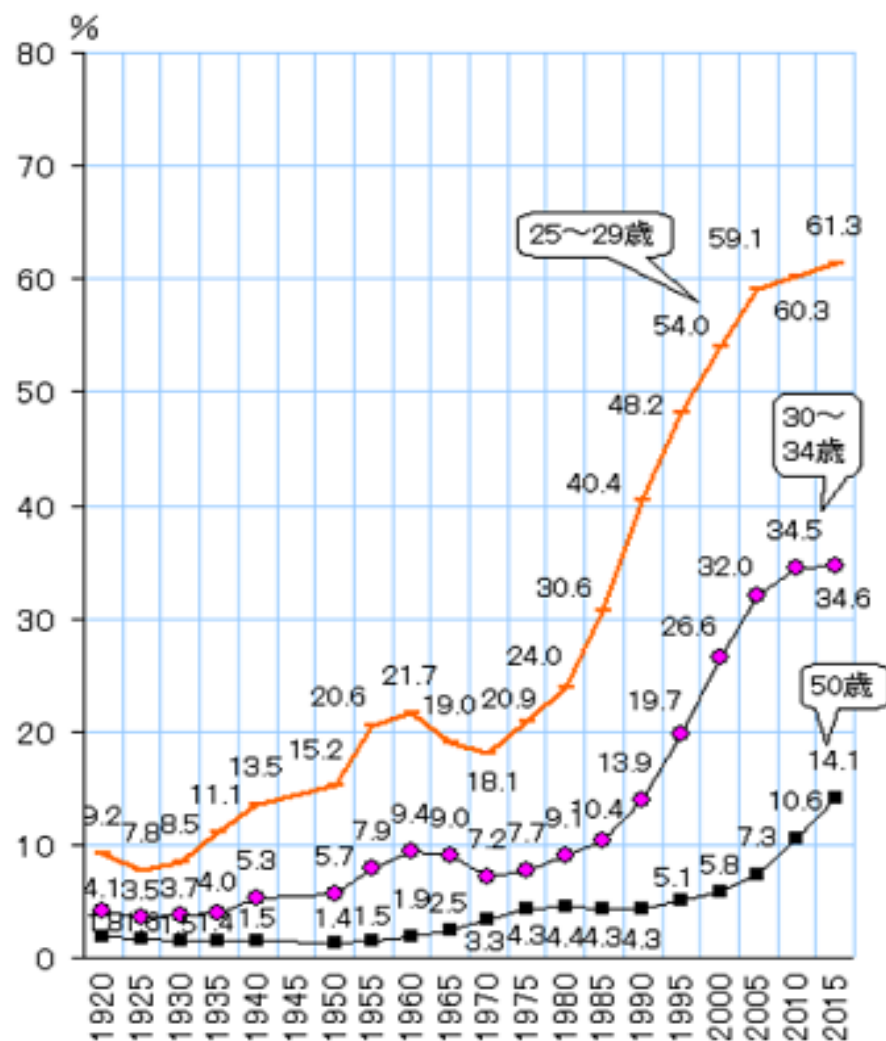
- 非正規化のさらなる進行
  - 未婚化・結婚離れ
  - 離婚
  - 子どもの貧困
- ・・・「男性稼ぎ主」モデルへの復権は現実的か？

# 図3 年齢別未婚率の推移

男



女

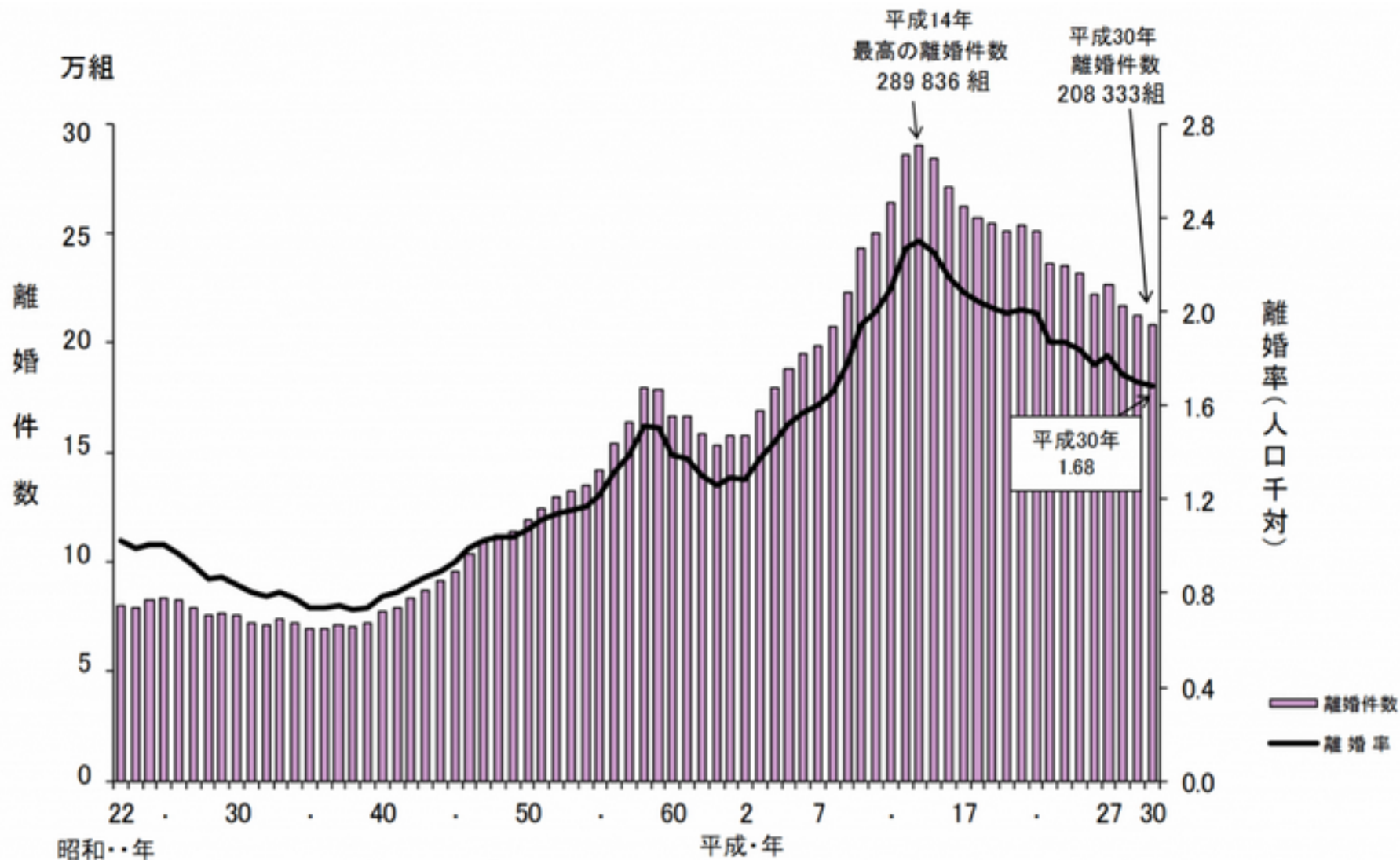


(注) 配偶関係未詳を除く人口に占める構成比。50歳時の未婚率は「生涯未婚率」と呼ばれる(45~49歳と50~54歳未婚率の平均値)。

(資料) 国勢調査(2005年以前「日本の長期統計系列」掲載)



# 図4 離婚の年次別推移



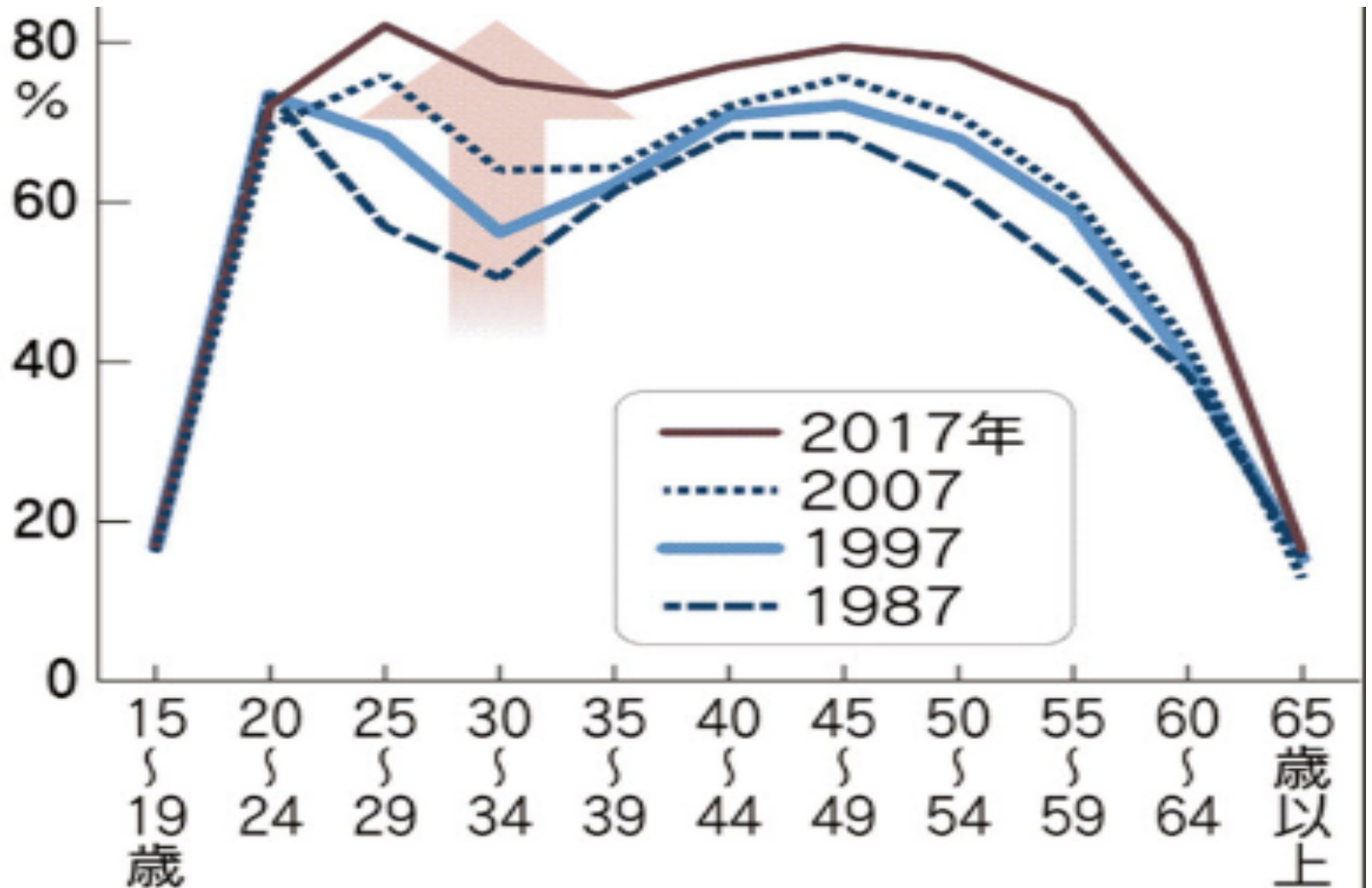
# 「結婚」の意味転換？

- 若者の「結婚ばなれ」現象
- 離婚率の上昇

←←←従来型の「結婚」像を遠ざける動きか？

←←←男性経済力に依存した結婚(=専業主婦を抱える結婚)の実現自体のハードルが高い現実

# 図5 女性労働力率の変化 —「M字」から「台形」へ—



(出所) 総務省労働力調査、女性の労働力人口比率

# 新しいモデルへ

- 若者バッシングの根底にあった「大人」像（あるいは「結婚」像）は、現実的ではない
  - 「男性稼ぎ主」モデルの現実的基盤は掘り崩されてきている
- ⇒ 女性の労働権、若者の労働権の確立が不可欠
- ⇒ 新しいモデル（＝格差を是正し、両立支援モデル）  
に向かう必要がある

## <新しいモデルに向かう過渡期を生きる>

- 過渡期の制約を踏まえつつ、自分自身のキャリア観、W&Lバランス観、パートナー観を。